質の高い大学教育推進プログラム
—教育方法の工夫改善を主とする取組—

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

PISA対応の討議力養成プログラムの開発
—日本における国際先端の教養教育の実現—

取組の概要

本取組では、他者と討論する力（＝討議力）を1、2年生（教養学部前期課程）の学生に養成する。

東京大学では、1，2年生全員が教養学部において教養教育を受ける体制をとっている。本取組は、これまでの教養学部の教育実績を新たな視点から点検・評価し、その質を国際標準に照らしてさらに高める努力を行う。

授業の中での討議力養成

討議力は、知識・論理・表現などの総合力であり、討議力の養成にはそれに適したスキルが必要である。本取組では、討議力養成を目的とする授業を別途開設するのではなく、さまざまな形態の授業に埋め込むことのできるさまざまな手法（モジュール）を開発し、それを多数の授業で応用する。

手法(モジュール)の開発・提案	模擬授業の実施
	討議力養成のための手法の事例集作成
	討議力養成プログラム推進ビデオの作成
	教職員の国内研修(他大学の取り組みを学習)
	教職員の海外研修（海外の大学における討議力養成プログラムのあり方を学習する）
環境整備	教室の改装
授業への組み入れ・評価	平成21年度は文科生を対象とする授業に討議力養成の手法を組み入れ、有用性を検討する。平成22年度は、理科生を対象とする授業でも、同様の取り組みを行う。
	公開授業の実施と教員による相互評価
	学生による授業評価の実施

キー・コンピテンシーズと討議力養成

OECDはPISA（学習到達度調査)を通じ、従来の知識とその応用という枠組みを超えて、読解力・数学的リテラシー、科学的リテラシー・問題解決という幅広い学力観を提起した。さらに、OECDのDeSeCoプロジェクトでは、「ツールの相互的活用能力」「異質な集団での関係能力」「主体的な行動能力」の3つからなる「キー・コンピテンシーズ」の考え方が提唱されている。

平成19年度末（2008年3月）に東京大学教養学部が実施した「教養教育の達成度についての調査」においては、DeSeCoのキー・コンピテンシーズを、大学レベルの能力として「学問的知識」「論理的・分析的に考える力」「自分の知識や考えを表現する力」「他者と討論する力」「問題を発見し、解決する力」「主体的に行動する力」として設問化した。このうち、「学問的知識」「論理的・分析的に考える力」は、「とても身についた」「ある程度身についた」と答えた学生を合わせると回答者の6割を超えているが、「他者と討論する力」は2割に満たなかった。

本取組には、さまざまな力の総合力である討議力の養成を重点的な課題とすることで、それ以外の能力についても全体的な底上げを図るねらいがある。

討議を組み入れた授業の効果

授業に討議的要素を組み入れることで、

- ◆ 学習意欲の喚起
- ◆ 学習内容の定着
- ◆ 分析的な思考力の向上
- ◆ 言語スキル、プレゼンテーション・スキルの向上
- ◆ 他者との意見交換・自己の考えの相対化を通じた理解の深まり
- ◆ 学生間の共同体意識の醸成

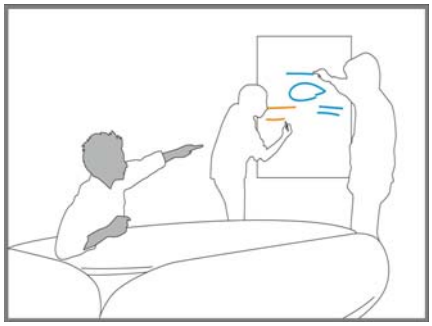
などのさまざまな効果が期待できる。

討議力養成のための手法（モジュール）の例

グループ・ディスカッション

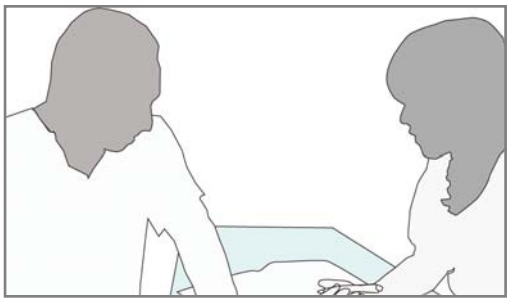
学生が小グループに分かれ、課題文献やトピックについて議論を行う。

ピア・レビュー



報告・リポートなどを学生が相互に添削することで、互いに学び合う。

ミラーリング



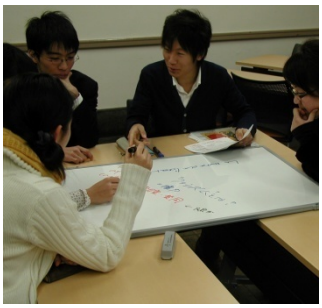
一人の学生の報告した内容を、もう一人が再説明することを通し、表現や聴くことのスキルを養う。

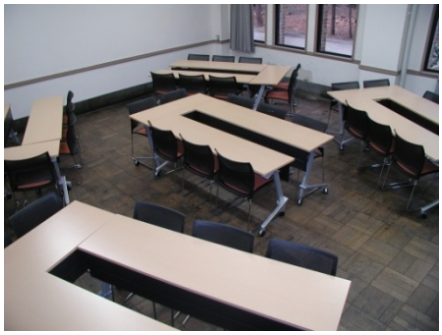
パーソナル・レスポンス・システムの活用

学生の解答がグラフで表示される機器を用い、議論の糸口とする。

環境整備 ― 討議に適した教室

討議力養成に適したモデル教室を設け、移動の容易な椅子・机や、組み合わせ式ホワイトボードを導入して、実験的な授業を行うことで、討議に適した教室環境のあり方を検討する。





東京大学教養学部の既存の教育プログラムとの連携

討議力養成プログラムにおいては、これまで東京大学教養学部が取り組んできた、「国際連携による学部初年次教育のモデル実現」（大学教育の国際化推進プログラム）、「ICTを活用した新たな教養教育の実現」（平成19年度現代GP）、「英語アカデミック・ライティング（ALESS)」、などのプログラムと連携しつつ、よりよい教養教育のモデル構築をはかる。

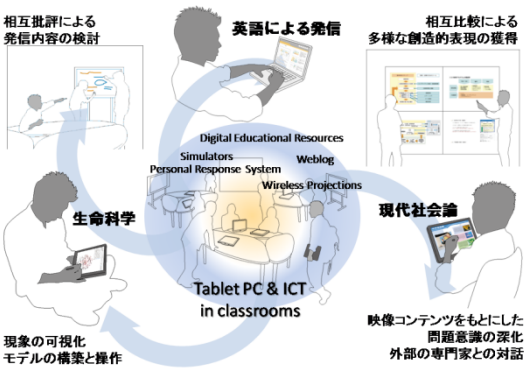
ICTを活用した新たな教養教育の実現(現代GP)

ーアクティブラーニングの深化による国際標準の授業モデル構築ー

本取組では、能動的かつ高次な学習活動「アクティブラーニング」を導入した教養教育の授業モデル構築を行います。

アクティブラーニング、すなわち、学生が能動的に、現象・データ・情報・映像などの知識のインプットに対して、読解・作文・討論・問題解決などを通じて分析・統合・評価・意志決定を行い、その成果を組織化しアウトプットするような活動を取り入れた教養教育の提案です。

ICTを活用した教養教育アクティブラーニング



ALESS(英語アカデミック･ライティング）

ALESSは、東京大学教養学部理科生全員の1学期必修授業である英語アカデミック・ライティング（プレゼンテーションも含む）のプログラムです。

今日のグローバル化に際しては、世界の人々と共に議論し世界の人々に創見を説くことが求められ、そのためには「書く・話す」という能動的（アクティヴ）な能力の涵養が必要となります。「読解・翻訳」や、和文英訳を主とした「英作文」を中心とするこれまでの英語学習に代わって求められるのは、理工系科学論文作成法の基礎（分析的思考と論理的表現）をシステマティックに形式化し（「アカデミック・ライティング」）、それを英語を書きながら学ぶことでありましょう。また、単なる「コミュニケーション」に代わり、正規の形式に則った論理的かつ効果的なプレゼンテーションを準備・実践する方法を学ぶ必要もあります。ALESSプログラムでは、これらの要請を、熱意ある教員によるカリキュラム開発と少人数クラスという形で実現しています。